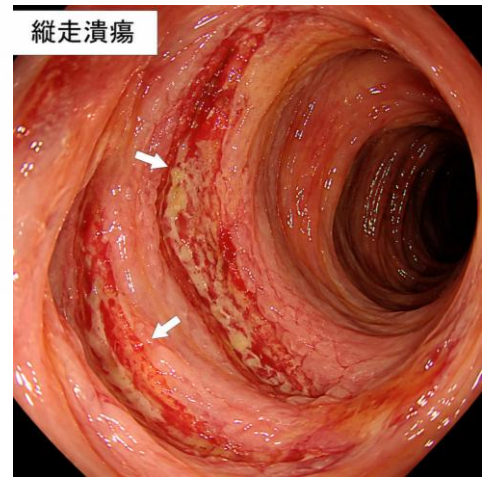
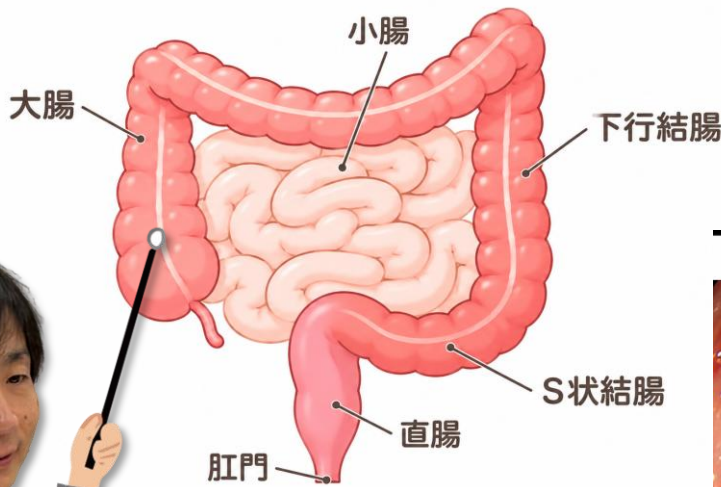


虚血性大腸炎は高齢者や便秘がちな人に多くみられます。



虚血性大腸炎は、大腸の粘膜に十分な血液が行き届かなくなること(虚血)で引き起こされる病気です。

虚血性大腸炎の原因

血管側の要因(糖尿病、高血圧、脂質異常症などに伴う動脈硬化や、脱水による血流低下など)と腸管側の要因(便秘や浣腸による腸管内圧の上昇や、蠕動運動の亢進など)があり、これらの要因が複合して発病すると考えられています。高齢者や便秘がちな人に多くみられます。

症状

突然の強い腹痛に続いて下痢が起こり、徐々に血便がみられるようになるのが典型的です。身体の左側に位置する大腸の部位(下行結腸、S状結腸)に好発するため、お腹の左側が痛むことが多いです。吐き気や冷や汗を伴うこともあります。

診断方法

- 内視鏡所見(縦走潰瘍)
- 注腸検査(拇指圧痕像)

治療

多くの場合は、腸管を安静にする食事指導などの保存的治療で軽快します。症状が強い場合は、腸を休ませるために絶食としますが、その間は水分・栄養補給のための点滴が必要となるので入院治療が一般的です。腹痛や血便が落ち着いたら少量のお粥などから食事を開始し、段階的に食事の形態を変えていきます。通常、後遺症はみられませんが、虚血による腸管の障害が強い場合は回復後に大腸が狭くなること(狭窄)があります。狭窄が強く便が通りにくくなった場合、まれにみられる大量出血や腸管に穴が開くような重症の場合は、手術が必要になることがあります。